

オンエアで開催!! 令和2年度東京都改善（福祉QC）活動発表会報告

東京都福祉施設士会 会長 高橋 紘

1. はじめに

この度「互いに学ぼう改善事例!!」より良いサービスにつなげるために”をテーマに令和2年度東京都改善（福祉QC）活動発表会を開催しました。

毎年、この時期に東京都福祉施設士会主催で改善活動発表会を実施してきており、本年も事業計画通り開催の準備を進めました。新型コロナウイルス緊急事態宣言があり、予定通り開催できるか危ぶまれました。

日程は宣言解除後でしたが、「東京都感染拡大防止ガイドブック（学習塾編）」を参考に、三密を避ける等感染予防対策をとった上で開催することにしました。その基準で間隔をあけて椅子を配置すると、参加定員をかなり縮小せざるを得なくなります。そこで、多くの方々に参加して頂けるよう、プロジェクターとスクリーンを増設し2部屋で開催の予定としました。しかしそれでも昨年の規模にはできず、オンエア方式を取り入れて開催する方式が浮上し、急遽その基準で開催要綱を作成しました。

2. リスクの洗い出しと課題の明確化

施設間のWeb会議の経験者から、「声がよく聞こえない」、「ハウリングが起きる」「機材トラブル」などの不具合の洗い出し、その要因と対策について教えて頂き、実施方法を決めました。パワーポイントを使ったパソコン間のやり取りには不安でしたが、事務局内で2台のパソコン間で試行して実現の可能性を確認しました。

無料のZoomシステムを利用したところ、時間内で納めるには、発表施設を6サークルに絞らざるを得ないことが判明しました。お断りしたサークルの方々には次回お願いしようと思います。

3. 実施に向けての準備

年度当初、会場施設や参加施設と調整をし、開催日を9月15日に決定。緊急事態宣言解除後に開催要綱を再調整し会員施設にメールおよびファックスで送付。会場で参加するか、オンエアで参加するか申込書に明記して頂く。8月末日までに発表資料を提出して頂き、事務局で進行表、オンエアの諸注意と発表資料集を印刷。リモート参加者に前日までに郵送。

リモートで申し込まれた発表者、参加者の方々には、会場の至誠ひの宿保育園とのZoomでつなぐテストを2回に分けて行い、相互に画像・音声の確認をし、当日に備えました。

4. 当日の進行

会場には講師4名、発表2サークル4名、会長他事務局3名、合計12名がソーシャルディスタンスをとって配置。マイクセット、パソコン3台とプロジェクター及びスクリーンを設置。

各施設からリモートの発表4サークル8名。視聴者都内21名、全社協事務局1名、都外8名（長野県、山梨県、山口県、広島県、秋田県）

当日の進行は至誠ひの宿保育園大江主任が担当し、会長の挨拶に続き、各サークルの発表を会場発表と併せ、リモートで発表して頂く方法をとりました。1サークル当たり15分で発表、会場にお招きした4名の日本科学技術連盟講師の方々には発表ごとに5分で発表者への質問とご講評を頂きました。このの方々には日本福祉施設士会関東甲信越静岡ブロック「改善（福祉QC）活動サークル個別指導講座」で東京都のサークルの講師をして頂いております。

5. 審査講評

発表に関する評価票については日本福祉施設士会全国大会審査票に準じて作成し、参加者全員にお願いしました。採点表と講評用紙はあらかじめリモートで参加される方々、発表サークルにお渡しして、発表会の終了後に送付して頂きました。参加者には当日提出して頂きました。

事務局で集計して一覧表を作り、25日にリモートで表彰式を行いました。賞状、副賞（クオカード）とともに皆様から頂いたご講評をプリントして発表サークルに贈呈しました。

賞	法人名	施設名	サークル名	テーマ	発表方法
金賞	社会福祉法人 南風会	シャローム みなみ風	チームオリ ーブ	「利用者の人員把握を徹底しよう！ ～利用者所在不明をゼロにする～」	オンライ ン
銀賞	社会福祉法人 至誠学舎立川	至誠ひの宿 保育園	KRM サークル	共有物を使いやすくするには	会場
銅賞	社会福祉法人 永明会	いなぎ苑	Nasi Pear	司会進行の技術レベルを向上しよう!!	会場
敢闘賞	社会福祉法人 至誠学舎立川	小百合保育 園	チームパンダ	掲示板的効果的活用	オンライ ン
敢闘賞	社会福祉法人 至誠学舎立川	至誠いしだ 保育園	グランドスト ーリー	園庭におけるルールの定着	オンライ ン
敢闘賞	社会福祉法人 至誠学舎立川	至誠第二保 育園	スマイルサー クル	個人別月案作成時間の削減	オンライ ン

審査をすると順位が目立りますが、この発表会のテーマは、「互いに学ぼう改善事例！！」より良いサービスにつなげるために”です。

東京都の発表大会の意義を4つあげておりました。

- ① QCに取り組んだサークルメンバーの自己実現。
- ② 施設の福祉基準を向上させていることのアピール。
- ③ 発表施設間の改善情報の共有化。
- ④ QC活動をしていない施設への啓発。



今回、申し込まれた参加者は発表者を含めて46名でしたが、オンラインで開催したため、1台のパソコンを数名で見守った施設がいくつもあります。申し込まれた人数以上の多くの方々に見て頂くことができましたと思います。他のサークルの発表を見て、学ぶべき点に注目して頂けたでしょうか。また、発表された方々をご覧になった方々からの講評で、どの点が良かったと認められたか、確認して頂ければ幸いです。各サークルがこの取り組みを足掛かりにしてさらにステップアップする工夫ができれば、発表会の目的は達成されたことになると思います。

6. 効果の確認と残された課題

参加者に運営に関するアンケートをお願いしました。9通回収、全員が及第点をつけてくださりまして、次回も同様の方式で、との意見をいただきました。

課題としては、発表以外の場面での音声が聞き取りにくいとの意見が多かったので、参加者全員がそれぞれのパソコンのマイクはじめ機器の使い方に馴れておくことだと思います。「マスク」の有無による音声の影響や、機材の調子の確認、効果的に実施するための機材の選定の工夫などがもっと必要だと思いました。

今回はQC研修の普及やオンエア発表会の試行を考え、参加費を格安にしましたが、組織の継続性を考えると採算面を考え参加費額を決める必要があります。そのような意見を頂きました。ありがたいことです。主催者・事務局へのねぎらいの言葉も多く頂き、苦勞が報われたと思っています。

7. まとめ

新型コロナウイルス禍はまだまだ続く気配をみせ、Withコロナによる新日常が呼びかけられています。福祉QCの発表会をリモートで行うのは初めての試みで、有り合わせの機材でここまで実施できることが確認できました。今後、効果的に実施するための会場の環境設定や必要機材についても検討していきたいと思っています。従来方式だけにこだわらず、このような形で研修会を実施するのが私たち研修団体の新日常の一つの形なのでしょうか。

ちなみに、グループワーク中心の当会主催の他の研修はリモートではやりにくいので感染防止策を講じながら、集合方式で規模を縮小しながら10月末から5本再開する予定です。